

仙南けやき教室便り ⑥

「してあげなきゃ！」の落とし穴

けやき教室でよく見かける光景です。

親が 子どもより先に車のドアや扉を開けてあげる。 → 子どもにとっては自動ドア。

親が 子どものカバンを持ってあげる。 → 重くないのに。

親が 子どもへの質問に先に答えてしまう。 → 「すぐに答えないと」という焦り。

子どものことが、心配で

「してあげなきゃ」「大人がやったほうが、早い」との感情の表れだと思います。

また、無意識にそうしてしまっていることも多いかもしれません。

『でも、ちょっと待ってください』

子ども達はちゃんと自分でできます。

たとえ、

失敗しても、もじもじしても、言葉足らずでも、動きがゆっくりでも、時間がかかっても・・・

「自分のことは自分ですること」 これは子どもの大きな自信になります。

子どもの前を歩き過ぎず、待ってくれる大人に、

子どもは安心し、信頼感が生まれます。

それこそ「子どもへ寄り添うこと」なのです。

最近のけやき教室

5月24日「春の社会見学」で松島へ。

買って食べた「フライドポテト」で話が盛り上がる！

「〇〇のコンビニのが美味しい！」

「△△のファミレスのが好き！」

切り方、揚げ方、太さ、量、味付けの違いがあるようだ。

子ども達はよく知っている。

そして、なかなか評価が厳しい。

私たち大人も、そう見られているのかもしれない・・・

